

令和5年（2023年）度行政評価シート【個表】

令和 5 年 8 月 10 日

評価対象事業		評価者	道路課長 吉本 敏明	
都整-15	道路維持補修事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	道路課
重点事業		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民等の安全性、利便性を確保するため。
効果	安全で円滑な交通を確保するための施設保全を図る。

2 令和4年(2022年)度を実施した事業の概要

・道路の維持補修を行い、安全で円滑な交通を確保し、事故防止に努めた。また、土砂や倒木の撤去等を行い、通行の安全を確保した。

- ・市道003-007号線外3路線の道路維持修繕工事を行った。
- ・大船駅東口ペDESTリアンデッキの積算業務委託を行った。
- ・市道027-000号線外1路線において、斜面の安全対策工事を行った。
- ・市道208-001号線外(岡本一丁目外)の斜面崩落対策詳細設計等業務を行った。
- ・平成29年度に行った路面下空洞調査箇所の再調査を行い、経過観察を行った。
- ・岩瀬隧道と小坪隧道の点検調査業務を行った。
- ・令和3年度からの繰越事業として、市道032-000号線の舗装修繕を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和4年度		令和5年度	達成度
				指標(実績値/目標値) 事業費(決算/当初)(千円)		指標(目標値) 予算額(千円)	
01	道路維持補修事業	工事請負費、積算業務委託	—	382,145 / 579,361	588,011		
02	トンネル長寿命化修繕事業	点検業務委託	修繕完了数	0 / 1	1	0.0%	
03				/			
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源内訳	国県支出金	73,096 / 80,325	96,705		
			地方債	262,500 / 435,900	380,100		
			その他特定財源	/			
			一般財源	50,074 / 68,933	130,143		
			事業費の合計(千円)	385,670 / 585,158	606,948		
		人件費(千円)		23,438	24,029		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	2.3	3.0	3.0	3.0		
会計年度任用職員	0.0	0.2	0.5	0.5		

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	道路維持補修事業	舗装、横断歩道橋、斜面の維持管理及び災害の緊急対応業務など、内容が多岐にわたり整理し難いため指標の設定はしないこととする。	維持管理を適切に行うことで、道路についての安全性と快適性の確保に寄与する。	舗装修繕の要望をこれまでも数多く受けていることから、事務の効率化の検討を行い、実施に向け取り組んでいく。長雨等の影響で道路斜面の安全対策の対応が急増しているため、対応に苦慮しているが、他の事業とのバランスと緊急度を考慮し、どのように進めていくか見極めていく。
02	トンネル長寿命化修繕事業	第4期基本計画においてはトンネル長寿命化修繕計画に基づく修繕完了数を指標としているため、整合を図り同じ指標とした。なお、地権者等調整が整わないため目標未達となった。	トンネルの長寿命化を図ることでトンネルの安全性の確保に寄与する。	道路区域が未確定のトンネルもあるため、修繕実施に向けて、地権者の理解を得られるよう努めていく。
03	0			
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善・変更 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
<p>トンネル等の道路施設については、経年劣化が著しいため計画的に修繕を行う必要がある。また、舗装の修繕については、市民から舗装修繕の要望も多く寄せられていることから、予算規模拡充や人員を増員して対応を図る必要がある。</p> <p>道路課事業のほか他課の事業(委任等)に職員2名分の人員を要している。</p>	

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	トンネル長寿命化修繕事業における修繕完了数						単位	箇所
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
第4期基本計画においてはトンネル長寿命化修繕計画に基づく修繕完了数を指標としているため、整合を図り同じ指標とした。	目標値	0	1	1	1	1	1	
	実績値	0	0	0				
	達成率	-	0.0%	0.0%				

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--